

## 水稻ひとめぼれにおける緩効性窒素入りペースト肥料の側条2段施肥法

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

緩効性窒素入りペースト肥料の施肥法について、普及に移す技術第78号参考資料として取り上げたところであるが、このペースト肥料を用いた側条2段施肥効果について、当県における水稻ひとめぼれ栽培での特徴とその施肥配分量の目安が明らかになったので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 基肥窒素は、慣行の基肥量と幼穂形成期追肥を上乗せした量で施用する。
- 2) 2段施肥における上段、下段の施肥量の配分割合は、2：1とする
- 3) 8葉期追肥や幼穂形成期の追肥を省略することができる。ただし、減数分裂期追肥は、必要に応じて行い、登熟の良化をはかる。

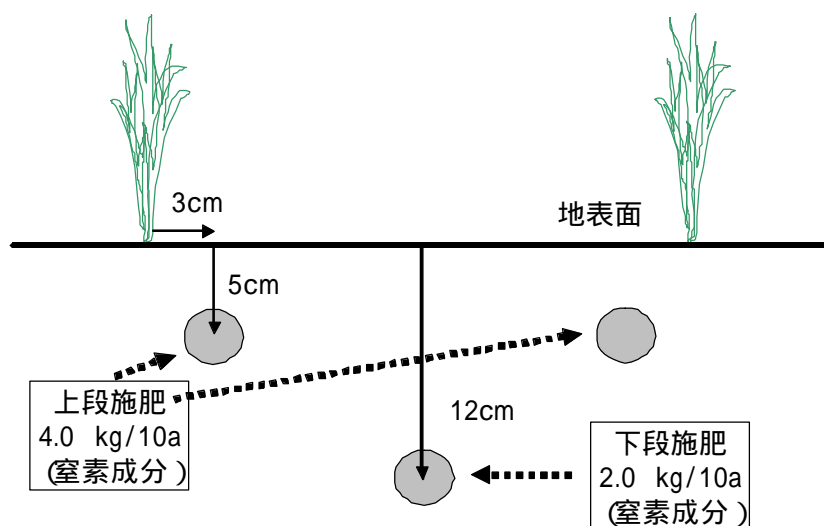


図 ペースト2段施肥イメージ (窒素成分で6.0kg/10aでの施肥例)

### 3 利活用の留意点

- 1) 従来のペースト肥料より肥効は緩やかで、慣行施肥体系に近い生育の推移を示す。
- 2) 施肥にはペースト肥料用の2段施肥田植機を使用する。

(問い合わせ先：古川農業試験場土壤肥料部 電話 0229-26-5107)

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

新資材・肥料の特性と肥効に関する試験

新資材・肥料の特性把握（平成14～16年）

##### 2) 参考データ

##### a 収量構成要素と品質

表1 収量および収量構成要素 (H14-16)

区	穂数 /m <sup>2</sup>	1穂粒数	総粒数/m <sup>2</sup> * 1000	登熟歩合 %	千粒重 1.9以上	収量g/m <sup>2</sup> 1.9以上	収量比	玄米タンパク %
平成14年 慣行	525	54	28.2	87%	23.3	576	100%	
2段(上4kg;下2kg)	477	62	29.7	84%	22.4	532	92%	
平成15年 慣行	489	60	29.4	83%	22.1	522	100%	6.8
2段(上4kg;下2kg)	486	58	28.3	86%	21.8	510	98%	6.4
2段(上3kg;下3kg)	451	61	27.4	83%	21.4	469	90%	6.2
1段(6kg)	461	56	25.8	85%	22.0	468	90%	6.2
平成16年 慣行	519	59	30.7	90%	23.7	647	100%	6.7
2段(上4kg;下2kg)	464	60	27.8	90%	22.8	565	87%	6.3
2段(上3kg;下3kg)	472	60	28.2	89%	22.8	566	87%	6.3
1段(6kg)	478	57	27.4	92%	22.9	571	88%	6.5

慣行：基肥 塩加燐安284 5.0N kg/10a，追肥 NK化成 幼穂形成期 1.0N kg/10a 減数分裂期1.0Nkg/10a

2段施肥：緩効性窒素入りペースト肥料を上段は地表下5cm，下段は地表下12cmに施用。( )内は10a当たり窒素施用量。追肥無し

1段施肥：緩効性窒素入りペースト肥料を地表下7cmに施用。( )内は10a当たり窒素施用量。追肥無し

玄米タンパク(%)は，水分15%現物換算値

##### b 生育の推移と特徴

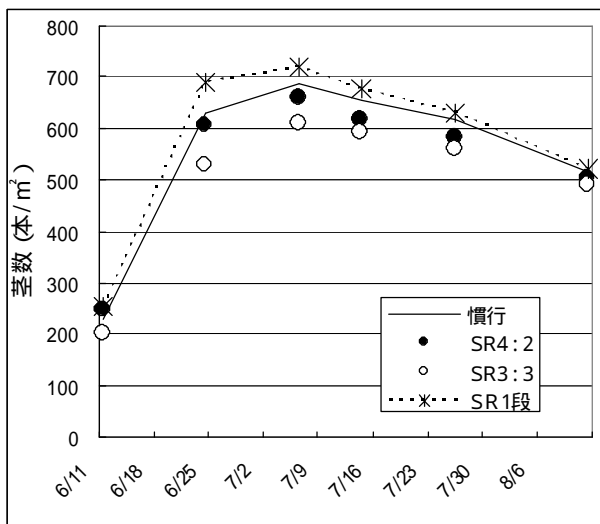


図1 穂数の推移 (H16)

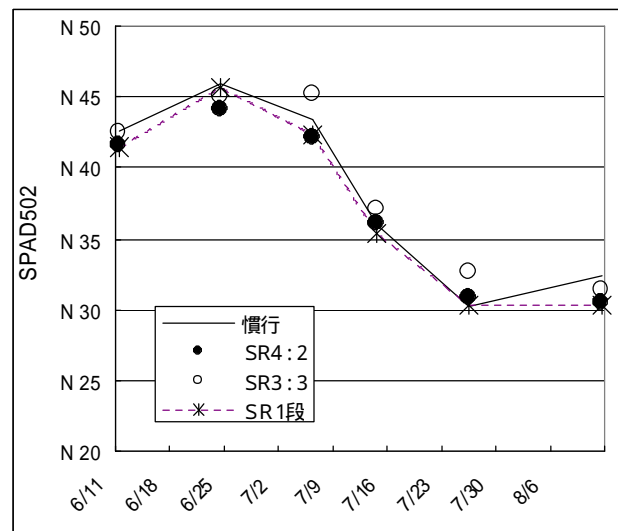


図2 葉色値の推移 (H16)

##### c 価格及び経費試算

表2 経費比較 (肥料費及び追肥労賃の試算)

施肥体系	肥料費 (単位:円/10a)		追肥作業 労賃	合計
	基肥	追肥		
慣行 (基肥 塩加燐安 1.0N kg 追肥NK化成1.0N kg × 2回)	3540	820	1075	5435
ペースト施肥 (基肥ペースト6.0N kg 追肥無し)	5200	0	0	5200
ペースト施肥 (基肥ペースト6.0N kg 追肥NK化成1.0N kg × 1回)	5200	420	538	6158

肥料費は概算，労賃は平成12年産「米及び麦類の生産費」(農林水産省統計情報部14.2)より試算

##### 3) 発表論文等

施肥田植機による高粘度複合肥料 (普及に移す技術第36号「普及技術」)

水稲ひとめぼれにおける緩行性窒素入りペースト肥料の施肥法 (普及に移す技術78号「参考資料」)